

平成29年度 学校経営計画及び学校評価

1 教育目標

<p>教育理念「高い知性、強靱な気力、豊かな情操の育成」 ～自らの能力や個性を生かし、創造的に生きることによって、社会に貢献し世界で活躍する人材を育成する～</p> <p>○目指す学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験に対応できる学力を育み、内部進学から難関国私立中学校まで幅広い進路選択が可能な学校 ・個性を大切にし、将来社会に出て必要とされる様々な力の基礎を育む学校 ・初等教育機関として社会的評価を有する学校 <p>○育てたい児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人々との共生と協働の道を探求し、社会で活躍できる子ども ・社会の変化に柔軟に対応できる素地を持つ子ども ・人間形成の基盤となる豊かな心を持つ子ども ・夢を抱き、その実現に向けて取り組もうとする知的エネルギーをもつ子ども <p>○教育の特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きく」こと、「聴き合う」ことを大切にした「グループ・ペア学習」を基盤として、「確かな学力」を身に付けるために、深い学びを実現するアクティブラーニング ・英語力とコミュニケーション力が身につく充実した「英語教育」「国際教育」 ・全学年を通して、創造的活動を展開する「サイエンス教育」「教科等横断的教育」（環境・エネルギー教育を含む） ・様々なひと・もの・ことにかかわる、豊かな心の教育 ・一人ひとりの能力に応じ、より高い学力を身に付けるための発展的学習
--

2 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成 2. 社会の変化に柔軟に対応できる力の素地の養成（主体性、多様性、協働性、学びに向かう力、人間性等） 3. 豊かな心の育成 4. 英語教育の充実 5. はつしばサイエンスの充実・深化 6. 支持基盤の確立 7. 安定した学校運営

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会 [平成30年3月23日] からの意見
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成（自己評価/B） <ul style="list-style-type: none"> ・内部進学率および難関中学校合格率は上昇した。 ・到達度テストの活用については、今後も検証が必要。 2. 社会の変化に柔軟に対応できる力の素地の養成（自己評価/B） <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査・学習状況調査の結果は良好 ・カリキュラム・マネジメント手法の確立・導入には至らず 3. 豊かな心の育成（自己評価/B） <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果は良好 ・「学校安全調査」（外部委託）の結果については、概ね良好であるが、言葉による暴力などの課題があり 4. 英語教育の充実（自己評価/B） <ul style="list-style-type: none"> ・定例教科会議を開くなど、授業改善への継続的な取り組みができた。 ・授業において、高学年の主体的な学びを誘発するような取り組みは課題があり、不十分であった。 5. はつしばサイエンスの充実・深化（自己評価/B） <ul style="list-style-type: none"> ・生活科(低学年)から理科(3年以上)への連続的取組について、保護者アンケートの評価は良好であった。 ・外部機関による資金補助を受ける3つの事業について実践を重ねることができた ・「理科(生活)好きな子をつくる」という点で、児童アンケートで学年によって評価に差があり、課題を残す。 6. 支持基盤の確立（自己評価/B） <ul style="list-style-type: none"> ・「大人の集い」の2回目を実施することができた。約6割の卒業生が参加 ・卒業生の交流サイトの構築はできず。次年度への繰り越し課題である。 7. 安定した学校運営（自己評価/B） <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育などの特色教育や進学実績が評価され、入試説明会への参加者数も増加している。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 委員会の実施日 第1回 平成29年7月21日 第2回 平成30年3月23日 ② 委員会参加者： 地域代表者、学識経験者、保護者代表 ③ 委員からの意見 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果は保護者・児童と教職員との良好な関係を反映しており、今後も継続してもらいたい。 ・学校の取り組みや児童・卒業生の姿をホームページや学校案内で発信してはどうか。 ・卒業後の幅広い進路選択ができることは大きなメリットである。

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成	(1) 学力推移データ等に基づく現状分析と課題の整理 (2) 授業内容の改善・充実 (3) 進路指導体制の再編 (4) 内部中学校と連携した学力検証の仕組みづくり	・到達度テストの現状分析・課題整理 ・改善内容の整理、改善計画の策定 ・算数ゼミや国語ゼミでの課題整理 ・6年生で算数4時間、国語2時間でゼミ授業を実施 ・低学年から入試を意識した指導体制の研究 ・内部学力基準として到達度テストと駿々堂テストとの相関性調査	・内部進学率及び、難関中学校への合格実績向上 ・低学年から中学入試を意識したカリキュラムをすすめる。算数ゼミや国語ゼミによる学力向上。 ・内部進学資料導入に向けた到達度テストの作成	・内部進学率及び、難関中学校への合格実績は向上した。 ・外部実力テストでの成績下位層が減少、上位層は増加。 ・内部進学の学力基準と到達度テストについては強い相関関係が見られる。到達度テストの活用について、今後も継続して分析を実施する。	・児童一人ひとりの希望する進学をかなえる学力養成 ・授業内容のさらなる改善 ・進路指導体制の体制整備
2 社会の変化に柔軟に対応できる力の養成	(1) 教育課程 (2) 授業方法の改善 (3) カリキュラム・マネジメント手法の確立・導入 (4) 教員研修体制の整備	・中学入試へ対応するための現学習計画の検証と見直し ・各学年で教科横断的な授業を実施 ・校内研、公開授業の実施 ・各教科部会、学年研の実施 ・各教科における単元ごとの学習計画の作成 ・学年・教科ごとの研修会を計画的に実施	・全国学力テストの結果を分析することで、現学習計画の見直を図る。 ・校内研を年9回実施、研修の成果として公開授業を実施 ・西日本私立小学校教員研修会(5/26)を本校で開催(参加者1000名) ・教科・学年で研修を重ねる	・全国学力テストの学校平均は2教科AB領域ともに全国平均を大きく上回った。 ・西日本私立小学校教員研修会で出た意見を今後の教育に活かす ・第6回公開授業(1/27)を実施(110名参加)	・学校として、カリキュラム・マネジメントに努め、はつしばカリキュラムの確立を目指す。 ・学年研修、教科研修などの研修時間の確保と充実を目指す。
3 豊かな心の育成	(1) あたり前のことをあたり前にする心(思いやり・自主自律・公正公平・勤勉など)の育成 (2) 児童支援体制の整備	・児童・教員間の信頼関係の構築 ・自問清掃の見直しと改善 ・学校の取り組み内容の保護者への周知 ・教員相談体制の整備 ・事案・課題等について教員間で共通理解するためのしくみづくり ・いじめに迅速に対応できる組織・体制の強化	・楽しい授業、分かる授業の追究。教科研等で検証 ・自問清掃のねらいが達成できているか、生活指導部を中心に検証 ・HPや通信等を通して保護者に知らせる ・メンタルサポート会議で情報の共有 ・いじめ防止基本方針に基づく対応実施	・アンケート結果(12月実施)「わかる授業をしてくれる」において児童・保護者ともに9割以上の肯定的評価を得る。 ・自問清掃については、今後も継続的に指導を積み重ねる ・学校HPへの1日平均閲覧数は400件以上で増加傾向。 ・メンタルサポート会議は、今年度12回実施し、会議として定着した。 ・アンケート結果(12月実施)「いじめのない取り組みを実施しているか」において保護者の8割以上が肯定的評価をしている。	・「保護者アンケート」の項目を学校の目指す教育内容に合致しているか検証し、より信頼関係の強化を図る。 ・「いじめ」や「言葉の暴力」などに対して撲滅をめざし、教員一丸となって取り組む。
4 英語教育の充実	(1) 英語教科化を踏まえた指導目標・学習内容の体系化 (2) 授業の充実 (3) 上位層を伸ばす仕組みづくり (4) 英語力の検証システムの構築	(1) 「はつしばカリキュラム」の策定 (2) T.T.を活用した授業の改善 (3) 校内国際交流プログラムの充実および参加者増 ・校外国際交流プログラムの充実および参加者増 ・校内コンテスト(レシテーションコンテスト)の充実 ・校外スピーチコンテストへの参加 (4) 学校評価アンケートの項目見直し (5) 外部検証試験の導入検討	・ネイティブ講師との連携強化。特に「書く」指導の開始学年を研究 ・子どもの学習意欲向上に効果的であるか検証 ・体験型プログラムの作成と実践 ・カナダ、NZへの語学研修において学んだ魅力を発表できる場の設定 ・授業でスピーチ力を高め、より積極的に参加できる機会の設定 ・西私小連コンテストで上位入賞のための計画的練習を実施 ・児童が理解しやすい文章に改善し、結果を分析 ・外部試験の内容調査	・定例会議を実施し、授業内容の検討改善を行った。 ・1年から「書く」指導を重点課題に置き、朝学習で書く指導を実施(10月～)した。 ・日本人コーディネーターによるTT体制を強化した。 ・校内レシテーションコンテストの参加者数は増加した。 ・コンテストの上位者が西日本私立小学校連合会主催の大会に出場し、6位入賞を果たす ・具体性のある表現を用いた質問項目を検討した。 ・英検・TOEFL Primary等の内容を精査した。	・4技能をバランスよく育成できる英語教育を目指す。 ・西日本初となる新教材を活用した先進的な英語教育を実施する。 ・英語力の客観的検証テスト(英語検定など)の導入の具体化

<p>5 はつしばサイエンスの充実・深化</p>	<p>(1)理科に関心を持つ心の育成</p>	<p>(1)体験活動（実験・観察等）の積極的導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題（環境・エネルギー問題等）を導入した教育の展開 ・外部機関と連携したフィールド教育の推進 ・外部機関と連携した ICT 機器活用教育の推進 ・「はつしばカリキュラム」の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年では遊びを通して、3年以上では受験を見据えた体験的活動を導入、各学年で取組を集約 ・経産省助成金を活用し、エネルギーと環境を重視した発展的内容の理科教育を実践 ・河川財団研究助成を受け、狭山池ダムを地域教材とした水環境学習を実施 ・パナソニック財団の特別指定校に全国唯一の助成を受け、ICT機器活用教育を実践 ・駿々堂テスト、及び到達度テスト結果より分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年から遊びを通じた実験的活動を実践した。保護者アンケートでは8割以上が肯定的評価 ・エネルギー環境教育を実施。エネルギー教育ワークショップ（2/17）で報告した。 ・河川財団より全国の小学校で初の3年連続【優秀校】として表彰。 ・小学校で全国唯一助成を受け、ICT機器活用教育を展開しその成果を報告会で発表 ・学年によって満足度にばらつきが見られ、検討を要する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はつしばサイエンス」としてのカリキュラム確立のため、教科会議の充実と、授業改善に努める。 ・「理科（生活）が好き」という児童がもっと増えるような体験的授業を多く取り入れる。
<p>6 支持基盤の確立</p>	<p>(1)学校支援者を増やす体制づくり</p>	<p>(1)同窓会発足を視野にいたした「成人の集い」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生交流サイトの構築と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・「第2回成人の集い」実施 ・小学校ポータルサイトを活用した卒業生サイト等の構築調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回成人の集いを実施（1/5）、61名参加 ・サーバーなどの環境整備は整うが具体的な運用は検討中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の発信を活かすべく、ホームページで卒業生サイトを構築し、活用を図る。 ・保護者との連携を深め、「口コミ」による支援体制を強化する。
<p>7 安定した学校運営</p>	<p>(1)募集定員の確保</p>	<p>(1)訪問地域・訪問幼児教室等の重点化</p> <p>(2)募集行事や外部説明会への参加者数の増</p> <p>(3)広報活動の積極的展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問地域拡大 ・早期からの募集活動開始 ・WEBやチラシの活用 ・複数回参加を促すための、説明会内容の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としての訪問回数増加。 ・2月中旬よりポスター配布 ・WEB申込の定着 ・各説明会において、内容を工夫し年長児の延べ人数は増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・競合校との違いを明確にした特色づくりによる個性化を図る。